

2002年5月の大気大循環と世界の天候

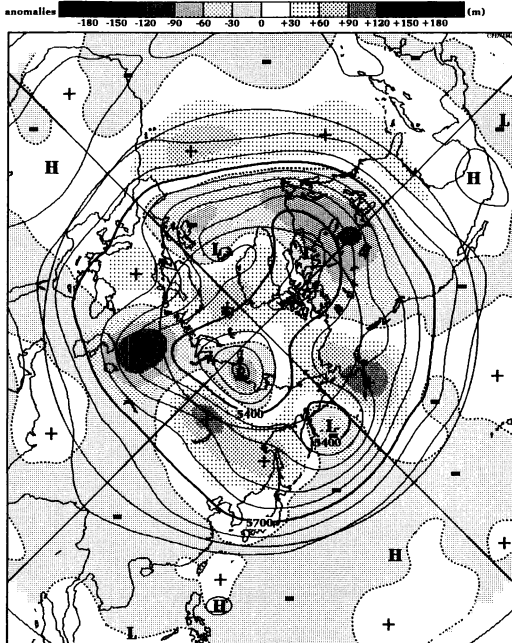
大気大循環

北半球500 hPa 高度では、太平洋東部で正偏差となり、アラスカ付近ではリッジ場となった。一方、太平洋西部から中部は負偏差となり、1月以降続いた太平洋の広い正偏差域は縮小した。ユーラシア大陸では波列状に正、負偏差域が分布した。カナダ付近では引き続き負偏差となり、大西洋の30~40°N では帯状に正偏差が広がった。

対流活動は、太平洋西部で引き続き平年より活発となり、太平洋の ITCZ (熱帯収束帯) は135~115°W を中心に平年より活発であった。インド洋の赤道付近からマレー半島、インドネシア付近では月の初めに平年より活発であったが、その後不活発な状態が続いた。フィリピン付近では5月の終わり頃に対流活発域に覆われ始め、対流活発域の北上は平年並であった。

200 hPa 速度ポテンシャルの分布図を見ると、マレー半島付近とニューギニア島の北東にみられる大規模発散域の中心は、ともにほぼ平年並の位置にあった。

SOI (南方振動指数) は-1.3で、1998年4月以来の大きな負の値となった。



2002年5月の北半球月平均500 hPa 高度および平年偏差

等値線間隔は60 m, 偏差パターン間隔は30 m. 平年値は1979~1993年のECMWF15年再解析データによる。

世界の天候

① シベリア南東部・中国北東部の高温

月平均気温はシベリア南部から華北、西日本から華南で高く、一部で異常高温となった。

② モンゴルから華北の多雨

③ マレーシアからインドネシアの高温

④ インド北西部からオマーンの高温

インドでは熱波に見舞われ1100人を超える死者が報じられた。

⑤ ヨーロッパ東部の高温

⑥ ヨーロッパ西部の多雨

⑦ 北米北部の低温

⑧ カナダ西部の少雨

⑨ 米国南西部の少雨

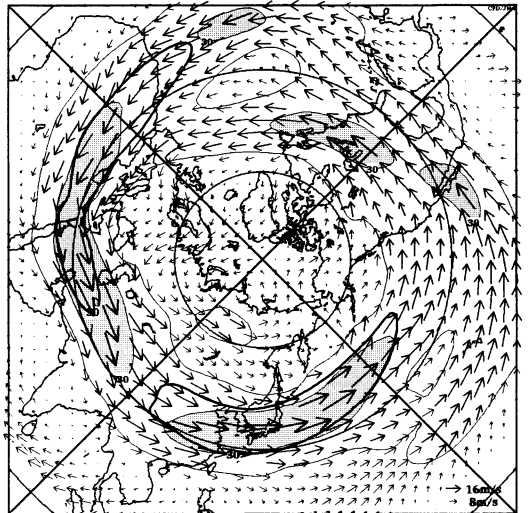
米国西部では広範囲で森林火災が報じられ、1200平方 km が焼失し、過去半世紀で最悪の規模になると報じられた。

⑩ 南米南部の多雨

チリでは上旬に、大雨による洪水や地滑りが発生し、10人以上が死亡したと報じられた。

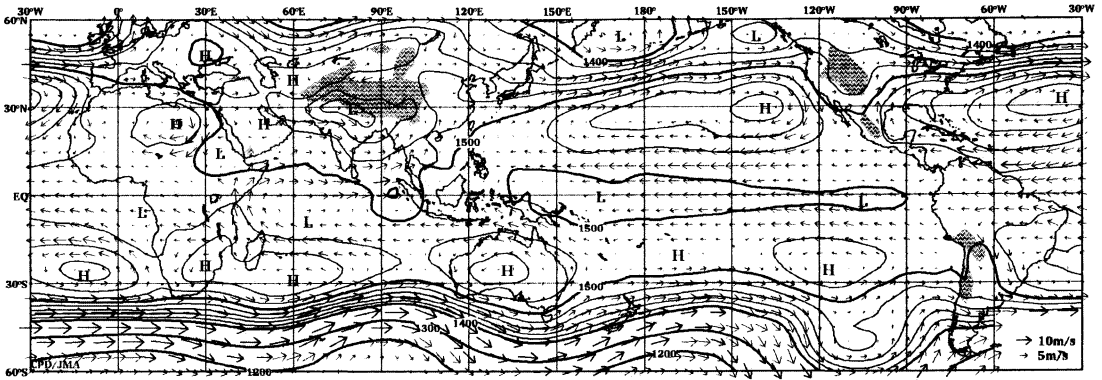
⑪ ポリネシア南部の高温

(気象庁気候・海洋気象部気候情報課 中村理恵)

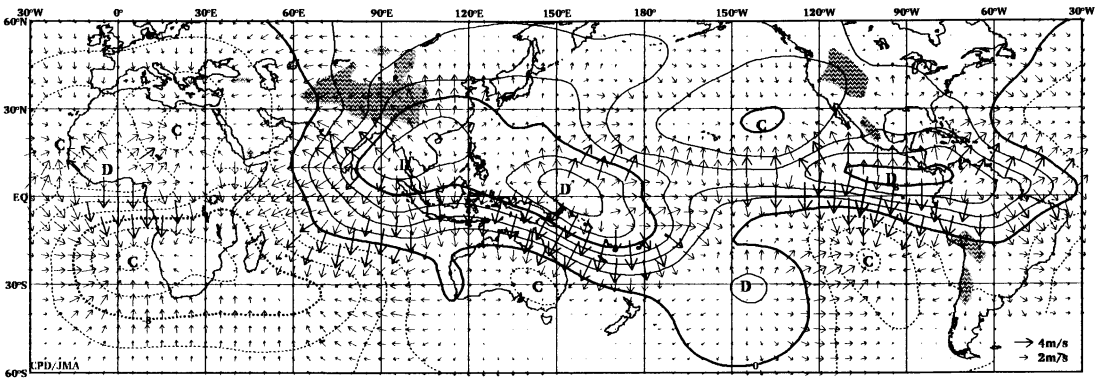


2002年5月の北半球月平均200 hPa 風速および風ベクトル

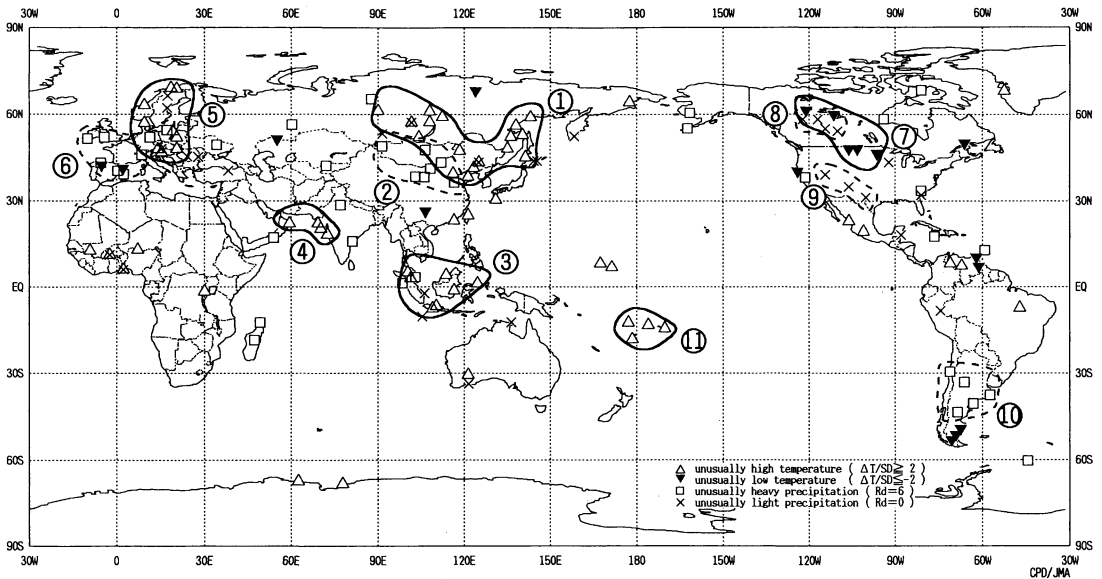
等値線間隔は15 m/s 以上. 陰影部は30 m/s 以上. 太実線で囲まれた領域は平年の30 m/s 以上の領域を示す. 平年値は1979~1993年のECMWF15年再解析データによる。



2002年5月の月平均850 hPa高度及び風ベクトル 等値線間隔は20 m (1400 mまでは100 m)



2002年5月の月平均200 hPa速度ポテンシャルおよび発散風ベクトル 等値線間隔は $2 \times 10^6 \text{ m}^2/\text{s}$



2002年5月の世界の異常天候分布図 △異常高温 ▼異常低温 □異常多雨 ×異常少雨
 異常高温・低温は標準偏差の2倍以上, 異常多雨・少雨は降水5分位値が6および0. 図中の番号は本文中の番号と対応している.